

## 平成 27 年度主要な普及指導計画一覧

地域名	課 題 名	取組期間	内 容
東 青	①地域経営を担う集落営農組織の法人化と経営改善支援	H26～28	左堰営農組合、北後潟営農組合、外黒山営農組合、野内畑集落の法人化に向けて合意形成、定款作成などを支援するとともに、これまでに設立された7法人について運営を支援する。
	②東青の魅力を盛り上げるグリーン・ブルー・ツーリズムの推進	H26～28	平成22年度に発足した「東青地域グリーン・ブルー・ツーリズム推進協議会」の受入実践者の掘り起こしや、体験メニューづくり活動を支援する。
	③女性が中心となった農漁村起業の活性化	H26～28	ネットワークが実施する消費者交流会の定着や商品開発、商品の充実等による「東青の味常設販売コーナー」の強化を支援する。また、若手女性起業を掘り起こしし、活動を支援する。
	④耕畜連携等による水田フル活用の推進	H27～29	生育観測ほの設置や省力・低コスト技術講習会、畜産農家の意向調査などにより、稲ホールクローブサイレージ（稲WCS）の生産と需要を拡大するとともに、水稻の直播栽培を拡大する。
中 南	①「青天の霹靂」による「特A」クラス米の安定生産	H26～27	栽培技術をスムーズに普及するため、新系統現地試験ほ担当農家を地域の拠点農家に位置づけるなど、研究会が新規作付者をリードする指導体制を構築する。
	②「つがるのミニトマト」生産拡大の推進	H27～28	ミニトマトの産地づくりやブランド化に向け、管内2農協などの関係者が一体となって生産拡大と販売を進め、現地巡回指導等により新規栽培者や新規就農者への支援を強化する。
	③「地域経営」の中核を担う組織経営体の育成	H26～28	実証ほの設置、検討会の開催により転作大豆の単収を向上するとともに、水稻育苗跡地へのミニトマトの導入を進める。
	④魅力ある加工品開発による女性起業活動の強化	H26～28	若手女性起業家の育成と女性起業のネットワーク化を進めるとともに、新商品の開発を支援する。
	⑤地域経営になりうる中心経営体の育成	H26～28	にんにくの高品質安定生産に向けて病害虫防除などを指導するとともに、中心経営体への農地の利用集積を支援し、ほ場整備の農家負担を軽減する。
	⑥商品力向上によるぶどう産地の強化	H27～30	病害の多発や房枯れが見られるスチューベンについて、適正な栽培管理や長期貯蔵に向けた房づくりを徹底する。また、シャインマスカットの栽培方法を周知し定着を図る。

地域名	課 題 名	取組期間	内 容
三 八	①地域農業を担う法人の育成	H26～28	農地を借りるために法人化するとともに、飼料用米の多収技術の導入や栽培品目の検討による経営内容の見直し、新規作物の導入について検討する。
	②選果データを活用したもも高品質安定生産の推進	H26～28	特秀率が低いため、優良園地の実態調査から栽培指標を作成し、下位等級生産園地の問題点の洗い出しと改善指導、選果データに基づく個別指導などにより、栽培農家の技術改善を進める。
	③女性起業者の育成確保による起業活動の推進	H26～28	若手女性起業者や起業希望者を対象に加工技術等に関する基礎知識の習得を支援する。女性起業者と食産業関連業者との連携を支援する。
	④人にやさしい野菜生産推進	H26～28	ながいも、にんにく、ごぼうの土壌病害虫を軽減するため、貸借による農地の確保と輪作の推進、土壌くん蒸処理安全使用ルールの策定、イモグサレセンチュウ等の防除法の策定などを行う。
	⑤経営所得安定対策のフル活用を目指す水田農業の確立	H27～29	飼料用米の直播栽培技術の向上や、小麦・大豆・そばの病害虫防除や適期作業の徹底により収量、品質を高め、経営所得安定対策の助成金を確保する。
	⑥地域にあった高品質酒米の生産	H27～29	実需者から「華吹雪」のタンパクが他地域より高いとの指摘を受けて、タンパク含有率の調査と個別指導を実施。また、「華想い」の導入に向けて地域適応性を確認する。
西北	①経営規模拡大に対応した西北型稲作省力・低コスト技術体系の普及	H26～28	省力・低コスト栽培技術を組み合わせた西北型技術体系モデルの実証や技術体系マニュアルの策定などにより、省力・低コスト技術の普及や非主食用米の栽培面積の拡大を図り、大規模稲作経営体を育成する。
	②気象変動への対応強化と省力・低コスト技術の普及によるトマト産地の維持強化	H26～28	夏秋トマトのUターン誘引やかん水の自動化などの省力・低コスト技術を普及拡大し、夏季高温対策や青枯病対策について検討し指導する。
	③新たなブランドの確立と黄色りんごの高品質安定生産	H26～28	ブランドりんごの規格検討やモデル園の設置、高性能選果機のデータを活用した生産指導等により、ブランドりんご生産技術を普及拡大する。また、黄色りんごについて、高糖度・高品質りんごの安定生産や適期収穫の徹底によりレベルアップを図る。
	④西北の魅力を伝えるグリーン・ツーリズムの推進	H26～30	体験メニューや農家民宿許可取得者を増やして受入体制を整備するとともに、他団体等との連携により体験・宿泊の受入を拡大する。

地域名	課 題 名	取組期間	内 容
上 北	①上北トマトの生産拡大による産地力強化	H26～28	単収8トン/10aを確保するため、低単収農家の巡回指導により生産技術の底上げを図るほか、葉先枯れのでにくい施肥体系や循環扇による灰色カビ病抑制技術の試験、フェロモントラップによるオオタバコガの防除情報の発信などを行う。
	②飼料用米の低コスト・安定生産と地域内流通体制の整備	H26～28	直播栽培や疎植栽培について個別指導や研修会などにより支援し、多収性専用品種「みなゆたか」の栽培や稲SGS加工技術の指導を行い取組の拡大を図るとともに、稲作農家と畜産農家のマッチングを実施する。
	③次世代を担う若手女性農業者の育成とネットワーク化の推進	H27～29	若手女性農業者が参加しやすい講座の開催や、「かみきた農業女子」サイトの開設、若手農業女子による売込隊の結成と首都圏での販売イベントへの参加などを行い、若手女性農業者のネットワーク化を進めることで次世代の農業女性リーダーを育成する。
	④牛群検定成績を活用した飼養管理技術の向上	H26～28	飼養環境や搾乳衛生に課題のある農家が多いため、モニタリング調査や牛群検定の結果を基に現地指導を実施する。さらに、リーフレットの作成・配布や勉強会の開催により改善を進める。
	⑤土壌病害虫対策技術等を活用したにんにく産地の再構築	H26～28	にんにくの土壌病害虫の被害拡大を防止するため、優良種子増殖技術の普及や土壌病害虫診断、発生農家の巡回指導を実施し、地域が一体となった体系的・継続的な取組を推進する。
	⑥上北そばを活用した地域活性化	H26～27	「にじゆたか」の栽培に関する講習会や検討会を開催し、排水対策や土づくりを徹底させる。「にじゆたか」を使用した麺のPRや上北産そばの加工品を試作販売し、地産地食を推進する。
	⑦県内一のながいも産地力の強化	H26～27	生産技術の向上を図るため、品質向上試験ほの設置や個別カルテ分析による農家指導、優良生産者による若手農業者への生産技術の伝承等を実施する。
	⑧若手農業者の企画力向上による農業の魅力発信と交流活動の活性化	H26～27	若手農業者の配偶者対策として、関係機関による「地域ハッピーライフ推進協議会」を設置し後継者の支援策を検討、また、農業経営士などをマッチングサポーターに委嘱。さらに、若手農業者の企画による交流会やインターネットによる農業・農村の魅力発信などを行う。
	⑨地域経営を担う新規就農者の定着と経営基盤の強化	H26～27	青年就農給付金受給者は農業技術や経営感覚が不十分なため、栽培技術や経営管理能力の向上や販売力の強化に向けて、個別巡回や研修会などにより支援する。

地域名	課 題 名	取組期間	内 容
下 北	①下北地域における「ほっかりん」産地化の推進	H26～28	「ほっかりん」のブランド化に向けて、生産技術の指導、販売ルートの検討、米袋・パンフレット等の作成、商工会等のPR活動への支援、フェイスブックなどを活用した広報活動などを行う。
	②地域経営の推進による集落営農組織の育成と6次産業化の推進	H26～28	法人経営の円滑な運営を図るため、税理士等を活用した経営指導や、大豆やWCS用稲の安定生産、農地中間管理事業の活用、「おおりブルーベリーまつり」の定着に向けた支援を行う。
	③担い手育成と野菜生産拡大を通じた直売所の活性化	H27～28	直売所の慢性的な野菜不足を解消し、直売所の活性化と青年就農給付金受給者などの新規就農者の定着を図るため、栽培実証ほの設置やテスト販売の実施、野菜生産に向けたセミナーの開催、直売所活性化戦略の策定などを行う。